

# 不織布ウェットタオルで院内感染を防ぎ、患者の安全性と看護師の業務効率向上に貢献します

## 事業のポイント

医療ディーラーとの繋がりを活かし、医療機関との対話を重視。医療・介護現場の持つ「不便・不満・不安」を取り除く視点で商品開発を行い、明るい医療現場づくりに貢献するビジネスモデルを構築。

### ◆患者の体拭き等に使うウェットクロスの開発

病院では、患者さんの体等を拭くために布タオルが使われています。布タオルは濡れているとカビや細菌の繁殖の原因にもなるため、ほとんどの病院では乾いた状態で納入し、看護師の方が「濡らす・絞る・丸める」作業を行っており、準備にかかる作業負担は課題となっています。

ウェットクロス「メディカルメティッシュ」は個別包装のディスポ不織布製のウェットタオルで肌触りのよい素材を用いています。また、アルコールを使わず塩素を除去した超軟水と安定化二酸化塩素を用いることで、肌の弱い方にも配慮しています。この商品の開発により、看護師の方の作業負担が大幅に減り、また、患者さんにも安心できる衛生紙的なサービスを提供できるようになったと聞いています。



内藤 丈典 大富士製紙株式会社  
専務取締役

<大富士製紙株式会社連絡先>

【本 社】〒799-0401 愛媛県四国中央市村松町 510  
TEL: 0896-24-3385 / FAX: 0896-24-7824  
<http://www.daifuji.co.jp/>

### ◆医療現場の「お困りごと」を取り除く視点での商品開発と意識改革を促す現場とのやり取り

大富士製紙(株)は、主に外食産業向けの紙おしぼりを手掛けていましたが、厳しい価格競争に直面していたこともあり、撤退も視野に入れて今後の展開を模索していました。そのとき、従来から取引のあった医療ディーラーから、医療現場の声として「布タオルの扱いに困っている」と聞き、そのようなお困りごとに対して何か手助けできることはないかと考えたところ、紙おしぼりを「ウェットタオル」と捉え直すことで、手を拭く以外の新しい用途の発想に結びつけることができました。

弊社の商品開発は、技術シーズありきではなく全て顧客目線から考えています。それは、現場が日頃感じている「不便・不満・不安」の「3つの不」を取り除く視点で、弊社の営業が医療現場に直接お話を伺うことから始まります。

医療ディーラーを通して現場の看護師の方に試作品のモニタリング評価をいただきながら開発を進めました。その中で「患者様の体を拭くためにはよりサイズの大きく、厚みのあるものが必要」という現場のニーズに応えるために、ウェットクロス「メディカルメティッシュ」を開発しました。

その後、販路開拓のために東京近辺の医療ディーラーや病院等 3,000 件にサンプルとともにダイレクトメールをお送りしましたが全く反応がなく、信頼や認知度を上げる必要性を感じました。

そこで、医療・介護分野に特化した展示会「国際モダンホスピタルショー」の存在を知り、現在まで6年連続の出展を重ねています。ご来場いただいた現場の看護師の方に実際に商品を手にとっていただきながら、様々なご意見をいただきました。また、展示会出展により弊社のウェットタオルの使用をご希望された医療機関からの紹介もあり、医療ディーラーのネットワークも徐々に増えていきました。展示会への出展回数を重ね、根気強く来場者の方々と意見交換を繰り返し行うことが、知名度・認知度の向上に繋がっていくと考えています。

医療機関においてもコスト意識は高い傾向にあり、その分看護師の方の創意工夫で現場を切り盛りしていることも少なくないと聞いております。弊社は、製品の価格や性能だけでなく、現場の看護師の方の作業負担軽減や患者さんの快適性向上等を通じ、明るい医療現場となることを目指し、医療現場の方との対話を重ねながら現場に喜ばれる製品を開発しています。

## ◆競合商品との差別化と医療現場へ期待される効果

●医療・介護向けのウェットタオルは、競合商品が多くなってきておりますが、顧客目線に徹した開発や独自のビジネスモデルを展開することにより、競争市場の中で生き残っていくために、日々、情報を集めネットワークを活用していっています。そのような中で新たに開発したのが「メディカルメティッシュ超大判」です。患者さんの体を拭きやすいように超厚手の素材を導入し通常サイズの2倍(28 cm×60 cm)は医療・介護現場から大きな反響がありました。さらに、弊社は「医療介護 衛生不織布\wet cloth」として商標権を取得することで、競合他社との差別化や自社ブランドの保護を図っています。

●開発では弊社のみで対応できない部分は外部と連携してきました。素材に強みを持つ製紙メーカーと連携してニーズに対応できる機能を備えた素材を作っていたほか、体への負担が小さい薬剤の知見を有する薬剤メーカーと連携して、皮膚の弱い高齢者や患者さんにもお使いいただけるような商品を開発していきました。

●布タオルからの切り替えによる効果は、目に見える形でお示するのは難しいですが、準備・片付け、洗濯等にかかる人件費や光熱費等、諸々の費用や手間・ロスへの効果が期待されます。実際に布タオルを使用して院内感染が発生した医療機関からは、本商品を試験的に導入していただいたところ、布タオル使用時よりもコストが下がり、院内感染も起きなくなったと学会でご発表いただいた例もあります。

●ウェットクロスの今後の市場性や需要を見据え、「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(経済産業省)」を用いて、生産量や今後の品質安定性を図るための設備投資も行いました。



ウェットクロス  
「メディカルメティッシュ超大判」



メディカルメティッシュ使用イメージ

### 医療現場からの声

- (看護師側より) 布タオルの準備・後片付けにかかる時間的ロスや作業負担が減り、本来の医療サービスに一層専念できるようになりました。また、院内感染のリスクも低下し、患者さんも我々もより安心できるようになりました。このような商品によって、我々も楽しく働き、患者さんによりやさしく明るい院内環境こそ本来あるべき姿だと意識を新たにしました。
- (患者側より) 布タオルは病院で洗濯して繰り返し使われているため、繊維が固くなり表面がゴワゴワしていました。洗濯時の塩素の臭いも気になりました。本製品は柔らかくて拭き心地もよく、サラリとして肌に優しいと感じました。また、個別包装されて、衛生的な状態で使うことができるのも良い点と感じました。



## ◆その他取組の特長、今後の展開など

●今後は、より現場の方へのPRを目指して「HOSPEX Japan」等、複数の展示会への出展も検討していきたいと思います。また、医療ディーラーが主催する感染対策セミナー等の併設展示会にも出展して、より多くの現場の方にも手に取って知っていただくとともに、更なるネットワークの構築も行っていきたいと考えています。

●ウェットクロス「メディカルメティッシュ」は、現在は医療機関向けを中心に展開していますが、介護施設や在宅向けにも、ニーズの掘り起しと提案をしていければと思います。また、水道が使えない災害時におけるニーズ、スポーツ直後の体拭き等の用途展開も今後期待されるのではと考えています。

●弊社は衛生紙と衛生湿紙のプロデュースを通じて明るい医療・介護現場づくりに貢献するビジネスモデルを軸としています。実際に「現場」にお伺いし、使われている「現物」を拝見し、そして、現場の方々が置かれている「現状」について対話を重ねる、というポリシーのもと、今後も現場の課題解決に少しでも貢献することを目指す取組を進めて参ります。